

# Land Reform in South Africa and its Impact on Agriculture: Relationship Between Farm Size and Productivity

南アフリカの土地改革と農業への影響：農地規模と生産性の観点から

国際協力学専攻 47-076862 2011 年 3 月修了予定 池之上志門

指導教官：山路永司 教授

キーワード：土地改革、南アフリカ、農業生産、農地規模と生産性

## 1. 研究背景

農地規模と農業生産性には負の相関関係があるとされる(以下、規模と生産性の負の相関)。例えば、Binswanger ら(1995)は、大規模な商業農地に比べ、小規模な家族経営農地の方が農業生産に対するインセンティブが高まり、より高い生産性を実現できている。世界銀行も長らくこの理論を肯定し、世界各地の土地改革への影響も大きい(雨宮 2007)。

南アフリカにおける土地改革においても上記理論の影響が大きく、白人の所有する大規模農地を被差別層であった黒人へ再配分することが進められた(Williams 1996)。しかしながら、開始から 15 年がたった今でも改革は思うように進んでおらず、2015 年までに各種土地改革プログラムを通じて全農地の 30%を黒人層に再配分するという数値目標の達成は難しいとされている。個別プロジェクトにおいても問題が多く、農業生産自体が大きく落ち込んでいるという報告もある。これらの報告や関連する研究に関しては個別のプロジェクト内の評価が主であり、農地規模と農業生産性に関して異なったプログラム間での比較は行われていない。

## 2. 研究の目的と問い

本研究は、南アフリカの土地改革農地における規模と生産性の負の相関を検証することを目的としている。具体的には、土地の所有権移行後の農地規模の変化に差異がみられる 2 つの土地改革プログラムに関して、事例調査により農業生産の実情を調べ、プログラム間の比較を行う。

検証を行うにあたり、以下の 3 つの問いを立てた。

- i) 土地改革プログラムによって所有権の移行した農地における農業生産の現状はどうなっているか。
- ii) 2 つのプログラムの農業生産の違いは何か。それはどのような理由から生じているか。
- iii) 南アフリカの土地改革農地において規模と生産性の負の相関は存在するか。

## 3. 土地改革プログラムと農地規模の変化

本研究では土地再配分(land redistribution programme)と土地返還(land restitution programme)という 2 つの土地改革プログラムを対象とする。前者は 1 つの農場をそのまま、あるいは部分的に受益者グループに再配分するものであり、農地規模の縮小を実現できる(Fig. 1)。一方、後者に

おいては複数の農地を含む大規模な土地をコミュニティに返還するもので、農地規模の拡大を意味する(Fig. 2)。

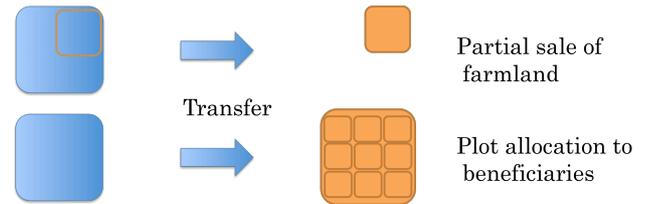


Fig. 1 土地再配分プログラムのプロセス

※左の四角は白人の所有する農地を、右は受益者にわたった農地を表す。

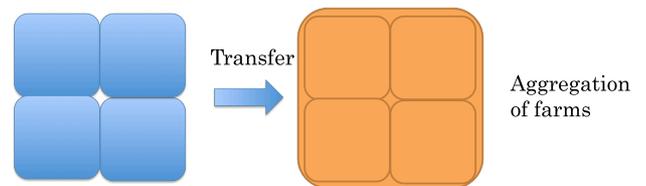


Fig. 2 土地返還のプロセス

※左の四角は白人の所有する農地を、右は受益者にわたった農地を表す。

## 4. フィールドワーク

検証を行うにあたって、南アフリカ北部のリンポポ州へのフィールドワークを行った。再配分農場では農家に対して土地利用や農業に関連した問題点について聞き取りインタビューを行い、土地返還農場ではこの他に農業生産に大きな影響を与える土地返還のプロセスについてキーパーソンインタビューを行った。

調査においては 8 つの再配分農場と 3 つの土地返還農場を訪れた。いずれの農場も訪問時は農業生産を行っていた。

## 5. 結果と考察

### 5.1. 土地改革農地における農業

再配分農場においては土地が有効に活用されておらず、利用可能地の 4 分の 1 程度しか利用されていなかった(Table 1)。7 つの農場で野菜などの換金作物が植えられていたが、5 つが 3ha 以下で小規模であった。また、移行時に植えられていた果樹は植付け面積こそ大きいものの管理が行き届いておらず、十分に活用できていなかった。牛の放牧を行っている農場も少なく、土地のほとんどは休耕状態、あるいは未開墾であった。なお、

農業に従事する受益者は各農場多くても 6 人であった。

**Table 1 再配分農場における土地利用**

総面積	耕作地	果樹	放牧地*1	貸出*2	利用率
1,820ha	25ha	104ha	230ha	114ha	26.0%

聞き取りインタビューを行った 8 つの農場の合計。

\*1 牛の飼育頭数×5ha で計算。

\*2 詳細が判明しない農場に関しては他の 2 つの農場の貸し出し面積の平均値(38ha)を使用した。

一方の土地返還農地においてはばらつきがあるものの農業生産は比較的好調であった。2 つの農場(ND, Mk)は大規模な果樹園として営まれており、共同経営者ともいえる戦略的パートナーとともに輸出用の柑橘類などを生産していた。もう 1 つの農場(Ma)では再配分農場と同じように混合農業システムの農場の集合体であったが、6 割以上の農地を利用しており再配分農場よりは有効利用していることがわかった(Table 2)。なお、労働力は多くの場合、受益者の内から雇用されていたが、旧来通りの賃金制であった。

**Table 2 土地返還農地における土地利用**

農場名	面積	農業システム	利用率
ND	3,453ha	果樹園	(90%+)
Mk	(837ha)*1	果樹園	(90%+)
Ma (平均)*2	413ha	混合農業	61.4%

\*1 果樹の植付け面積。総面積は不明。

\*2 聞き取りインタビューを行った 3 つの農場の平均。Ma 全体に返還された面積は 7,650ha。

## 5.2. 土地返還農地の農業生産における優位性

再配分農地の生産者は元来農業に従事していなかったか、あるいは単に農業労働者であったため、大規模な農場を管理するスキルを有しておらず、政府が主催する農業講習などでも農業技術的なものに限られていた。資金面でも土地を担保にすることができず、クレジットへのアクセスがなかったため投資資金の調達が困難であった。

一方の土地返還農場に関しては、政府、あるいは個人的なコネクションにより戦略的パートナーを確保し農業生産を継続していた。戦略的パートナーは大規模農場を運営するスキルを有しており、投資資金も確保することができるため、従来なみの生産能力を維持することができた。

## 5.3. 農地規模と生産性の関係性

以下の式は Binswanger ら(1995)が提唱する農地規模と農業生産性の関係を表す式(test of land size-productivity relationship)である。

$$P/K=g(OP, OW, H, Z)$$

この式において、左辺は投入量 K あたりの利益 P(但し、家族労働費を差し引いたもの)を表しており、これが生産性を表す指標となる。OP は利用農地面積(価値)であり、大きくなるほど労働力に対する監督コストが高まり生産性は下がるとしている。OW

は所有農地面積(価値)であり、大きいほどに土地を担保にしたクレジットへのアクセス機会を向上させるが、土地改革農場においては土地を担保に入れることができないため生産性には影響しない。一方 H は農業指導を行える大人の家族メンバーの数であり、大きいほどに効率が高まるとされる。Z はその他土地の品質などに関わる変数であるが、農地の品質などは少なくとも農業省の行った土壌分析の結果によれば他の農地と変わらない。

再配分農場を①、土地返還農場を②とすると以下のようになる(Table 3)。

**Table 3 生産性に関する項目の比較優位性**

項目	比較優位性	備考
OP	①>②	監督コストの差による
OW	-	土地担保による借入不可
H	①>②	①は家族労働力が大きい
Z	①≒②	土地の品質の差は小さい
P/K	①>②	①の方が高い生産性を有す

上記より、OP, H ともに再配分農地に優位にはたらし、理論上再配分農地の方が生産性は高いとなる。しかし、農業生産量でみると土地返還農場の方が優れていると考えられる。この式は単位面積あたりの効率しか考えていないため、広く土地改革を実地する場合はそれが全体の農業生産に与える影響を考えるべきである。

## 6. 結論と今後の展望

今回調査した土地返還農場においては再配分農場に比して土地返還農場の方が農業生産力の面で優れていることがわかった。その主な理由としては戦略的パートナーとの提携がもたらすマネジメント能力の向上と投資資金の確保にあると考えられる。

農地規模と生産性の関連性は実際に耕作を行っている範囲には適応される可能性はあるが、大規模な範囲で行う土地改革において活用するには注意が必要である。今後は数値目標に捕われることなく、行政が主導して商業農家と受益者をつなげ、マネジメントを行える黒人農家層を育てていくべきである。

## 参考文献

- Binswanger, H., K. Deininger and G. Feder (1995). "Power, distortions, revolt and reform in agricultural land relations." *Handbook of development economics* 3: 2659-2772.
- Williams, G. (1996). "Setting the agenda: a critique of the World Bank's rural restructuring programme for South Africa." *Journal of Southern African Studies* 22(1): 139-166.
- 雨宮 洋美. (2007). "貧困・土地・所有権：世銀の土地政策変遷とデ・ソトの議論からの覚書." *国際開発研究フォーラム* 34: 209-221.